

参加要領

- 参加は無料ですが、事前のご予約が必要です。
- お申し込みは「参加申込書」をFAX送信いただくか、もしくはメールにて下記アドレスに必要事項(所属、氏名、電話番号、FAX番号)を送信願います。
- 定員120名、定員になり次第締め切らせていただきます。
- 申し込み締め切り 2月16日(金)

問い合わせ先

国立大学法人東京農工大学 若手研究支援室 担当 加藤 阿部
TEL:042-367-5944/FAX:042-367-5946
E-mail:wakate@cc.tuat.ac.jp

開催場所

東京都千代田区四番町5-3
サイエンスプラザ 地下1階JSTホール



- 東京メトロ有楽町線「麹町駅」(6番口)より徒歩約5分
- JR「市ヶ谷駅」より徒歩約10分
- 都営新宿線、東京メトロ南北線「市ヶ谷駅」(A1-3番口)より徒歩約10分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」(5番口)より徒歩約10分
- JR「四ッ谷駅」(麹町駅)より徒歩約10分

日本型 テニユアトテック に関する シンポジウム

開催日時

平成19年2月22日(木)
13:00~17:00

開催場所

東京都千代田区四番町5-3
サイエンスプラザ 地下1階JSTホール

主催

TAT 国立大学法人 東京農工大学

日本型テニュアトラックに関するシンポジウム

開催趣旨

日本の科学技術の将来や国際競争力の維持、強化は、わが国で活躍する人材いかににかかっているといっても過言ではない。特に持続的イノベーションのための革新的なシーズを生み出すことにあっては若手研究者に期待するところが極めて大きい。若手研究者がその能力をいかに発揮し、その期待に応えるためには自立して研究できる環境を整備し、活躍の機会を与えることが是非とも求められる。

このような趣旨から平成18年度より文部科学省は科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」を発足させ、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニュアトラック制（若手研究者が、厳格な審査を経て安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み）を導入する試みを支援している。現在、9大学が科学技術振興調整費により、テニュアトラック制の導入を進めているが、テニュアトラック制は、人材の流動化が進んでいるアメリカのような社会ではうまく機能しているが、日本のような固定的な社会においては、その特性に合うよう問題点の改善や新たな工夫をする必要があると思われる。

そこで、文部科学省と協議のうえ、東京農工大学は8大学との協力のもとにテニュアトラックに関するシンポジウムを開催することとした。本シンポジウムにおいては現在各大学で進められているテニュアトラック制の進捗状況を報告するとともに、今後の進め方について議論する。また、日本に本格的に将来テニュアトラックを導入する場合を想定し、日本に適したテニュアトラックとはいかなるものであるか、またどのような工夫や改善が必要であるかなど、テニュアトラック制を日本に円滑に導入する方策などについて検討する。

さらにこれらを実現していく上で関連してくる大学におけるキャリアパス、人事制度のあり方などについて議論し、大学改革の検討に資することとする。

プログラム

13:00 開会挨拶

東京農工大学 学長……………小畑秀文

文部科学省挨拶

文部科学審議官……………林 幸秀

13:15 各大学の取り組み状況

モデレーター

東京農工大学 若手人材育成拠点 副拠点長……………中川正樹

コメンテーター

文部科学省担当課長

報告者

東京農工大学 理事・副学長……………笹尾 彰

東北大学 理事……………庄子哲雄

東京工業大学 理事・副学長……………本藏義守

東京医科歯科大学 難治疾患研究所長……………野田政樹

名古屋大学 理事・副総長……………山本進一

京都大学 理事・副学長……………松本 紘

大阪大学 理事・副学長……………馬越佑吉

九州大学 総長特別補佐……………湯元清文

北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科長……………三宅幹夫

15:00 休憩

15:15 パネルディスカッション

—テニュアトラックを契機とした大学の活性化戦略—

モデレーター

東京農工大学 学長……………小畑秀文

パネラー

上記報告者

16:45 閉会挨拶

東京農工大学 若手人材育成拠点 拠点長……………寺岡 徹